

在校生代表 送辞

暖かな日差しから春の訪れを感じられる季節となりました。今年の冬は日本海側や西日本を中心に広範囲で豪雪が発生し、不安の多い冬でしたが、幸い関東では大きな混乱がなかったことにホッと胸を撫で下ろした記憶はまだ新しいものです。

本日は、在校生の生徒を代表し、ご卒業される六十六回生の皆様にお祝いの言葉を送りたいと思います。

六十六回生の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。今、この場所に立つて先輩方を見ると、苦楽を共にした部活動や学校行事で見せてくれた大きな背中が無意識のうちに自分の目に焼き付いていたことを再認識させられます。二〇二〇年四月、私たちは六十七回生として駒場東邦中学校に入学しました。厳しい入学試験を突破した嬉しさと、新しい生活への不安、そして何より、新型コロナウイルスの影響への憤りが入り混じっていたことを今でも覚えています。幼かった当時中学一年生の私たちがそのような複雑な感情を処理することはできるはずもなく、そんな中ひたむきに努力する先輩方六十六回生の皆様の姿は私たちにとって大きな憧れでした。

思えば、私たち六十七回生と先輩方六十六回生の出会いは、新型コロナウイルスの影響を受け、随分遅くなってしまいました。部活の仮入部があったのは六十七回生にとって初めての夏休み、まだ新型コロナウイルスが猛威をふるっていて不安の多かった時期でした。その時私たちを支えてくださったのは、六十六回生の皆様でした。コロナによる異例の学校体制に戸惑いを感じることも多かった私たちに、先輩方は限られた時間で優しく丁寧に、ユーモア溢れる学校説明をしてくださいました。また、満足に学校に通えなかった時期に、部活動等を通じて「学校の楽しみ方」を教えていただけただけの時には、私の心に立ち込めた霧が晴れたような心地がしました。

さて、今日の世界情勢を見回すと、安定したものは決して言えなくなってしまうしました。ロシアによるウクライナ侵攻やパレスチナ・イスラエル紛争、スーダンやシリアでの内戦など、人と人とお憎しみ合い殺し合っているという現実を私たちは忘れてはいけません。また「AI」の台頭による世の中への影響もよく耳にします。AIを使えば単純作業や反復的な業務を行うのを非常に楽にしてくれる一方、使いすぎると「AI」に依存してしまったり、いわゆる人間の「創造力」が損なわれてしまう、といった議論が後を絶ちません。このよ

うな不安の種の多い不確実な現代社会をどのように生きていけばいいのか、これはとても難しい問題です。しかし、自ら考えてさまざまな行事を成功に導き、自らの強い意志で進路を切り開いてきた先輩方ならお分りのことと思います。幅広い分野に興味や関心を持ち続けてたゆまず学び、このような複雑な課題について粘り強く考え続けていくことが我々にできる唯一の方法であることを。今後もこの駒東の六年間で学んだ知識や経験を活かすことで先輩方の卓越した能力が遺憾無く発揮されることを願っています。

最後に、後輩たちのために尽力してくださった先輩方に深い尊敬の念を持って、今までの感謝をお伝え申し上げます。そして、先輩方のさらなるご活躍を心よりお祈りいたします。繰り返しとなりますが、六十六回生の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。

二〇二五（令和七）年 三月七日

在校生代表 西村将